

事例 10 埼玉県小鹿野町

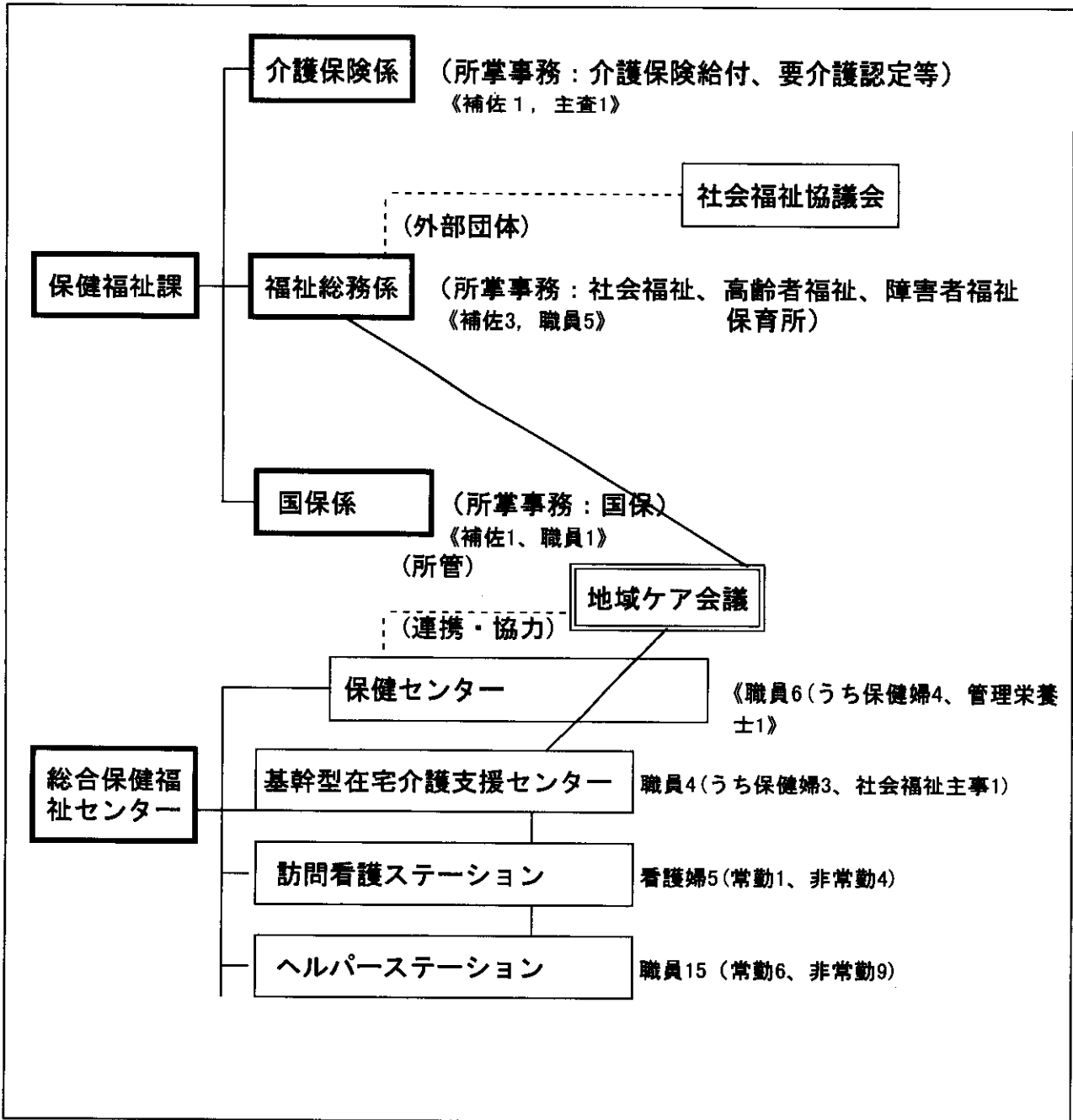
人 口	12,116 人
高齢者数	2,849 人
高齢化率	23.51%
担当部署	保健福祉課

1. 市町村の概況

市町村の概況	<p>小鹿野町は、埼玉県の西北部に位置し、秩父盆地のほぼ中央に市街地を形成しています。町の中央を東西に走る国道299号は、かつて江戸と信州を結ぶ重要な街道で、古くから宿場町として産業経済、文化、交通がひらけ、現在でも西秩父地域の中心をなす町です。町の総面積は、100.03K m²で大部分が山に囲まれ、平坦地はわずか15%にすぎず、そこに展開する市街地と山間に点在した集落をもって構成されています。</p> <p>本町の歴史は古く、縄文時代草創期の遺跡が確認され、1万2千年前から人々が生活したことを伝えています。明治2年には県内でもいち早く小鹿野村は小鹿野町と改称され、各分野で近代化が進められ、教育・道路・産業の振興など西秩父の中心として発展してきました。本町は昭和30年に小鹿野町と長若村が合併し、さらに翌31年に小鹿野町と三田川村及び倉尾村の1町2村が合併し現在の小鹿野町となっています。</p>										
人口	12,116 人		高齢者数 (高齢化率)			2,849 人 (23.51%)					
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯							
	1,803			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯				その他		
				218	322				1,446		
要介護認定 (申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計		
	22	2	79	137	148	66	79	53	586		
社 会 資 源 状 況	指定居宅サービス事業所 (か所数)		訪問看護 (1)	訪問介護 (2)	通所介護 (4)						
			通所リハ (1)	短期入所系 (2)	その他 ()						
	指定居宅介護支援事業所 (か所数)		2								
	保健センター 在宅介護支援センター (か所数)		1 2 総合保健福祉センター ※保健福祉センターなど、保健・福祉が一体となった施設があれば、記入して下さい。								
	介護予防事業の拠点となりうる場 (か所数) (公的施設以外も含む)		2								
介護予防事業の担い手となりうる組織・団体 (組織・団体数・人員数)		2組織 5団体 200人									

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。(平成14年1月1日現在)

2. 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図



- ※1 職員配置状況や所掌事務等についてもご記入願います。
- ※2 市町村直轄以外の在宅介護支援センター等についても組織図に書き込んでください。
- ※3 地域ケア会議等についても組織図に書き込んでください。

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか?</p>	<p>(○) 関連(類似)事業があった。 →問2～問4へ () 関連(類似)事業はなかった →問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか? また、その事業内容についてもご記入下さい。</p> <p>※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、県単独助成事業)、 所管部局、 事業内容(事業名、事業目的、対象者、実施回数、スタッフ等)</p> <p>○事業実施の根拠 国庫補助事業</p> <p>○所管部局 総合保健福祉センター</p> <p>・老人保健事業</p> <p>① A型機能訓練事業 月1回 20名参加 ② B型機能訓練事業 月4回 10名参加 ③ 骨粗鬆症予防教室 年15会場 300名参加 講演会、食生活指導、予防体操 ④ 脳卒中予防教室 年45会場 800名 講演会、24時間血圧測定、食生活指導</p> <p>・埼玉県立大学共同事業</p> <p>⑤ 寝たきり予防と地域リハビリの推進に関する研究 転倒に対する学際的研究 転倒調査 対象者 高齢者2,794名 体力測定 1,043名</p>
<p>(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか?</p>	<p>(○) 行った () 行っていない ↓ (具体的方法)</p> <p>調査研究を行い、別紙のように報告書を作成。 (別紙：報告書概要)</p>

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問4) 従来の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心となった部局はどこか？ ・ 何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？ 	<p style="text-align: center;">保健福祉課</p> <p>平成12年4月から施行の介護保険制度が導入され、従来の福祉行政が大きく変わった。</p> <p>町では、それに対応するため、平成10年度からこの制度導入向け調査、検討してきた。その結果、介護保険制度にスムーズに移行できた。</p> <p>介護保険事業については、在宅関係では、在宅介護支援センターを中心に全て直営で運営している。</p> <p>このように、要介護者に対するサービスは一応の成果を上げることができている。</p> <p>生涯現役いきいき小鹿野を目指して</p> <p>町内の高齢者は、2,832人で、多くは介護を有しない元気老人である。これら的高齢者の健康寿命の延伸を図り、いつまでも元気でいきいきと充実した生活を送ることができるような、事業展開を図ることが今後の課題となり、この事業の推進を図ることが、少子高齢化が顕著な当町の重要な柱となっている。</p> <p>このことから、平成12年度国の介護予防拠点整備事業の補助金を受け、介護予防・生活支援の拠点施設「般若の丘・いきいき館」を建設した。</p>
<p>(問5) (問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。</p> <p>今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？ ・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？ ・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？ 	<p>役場を利用し、老人クラブ・ボランティア団体と協議保健センターとの打ち合わせを実施</p> <p>運動プログラムなど専門部門について、筑波大学、埼玉県立大学との意見を伺い取り入れた。</p> <p>あった</p> <p>保健福祉課が中心となり企画し、保健センターに協力をお願いした。</p>
<p>(問2) 「介護予防事業」を企画する際、下記のような検討事項があったと思います。 貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・事業対象者の選定方法はどうか？ ・事業に従事する人材をどのように確保するか？ ・既存の設備の利用が可能か？ ・新たな設備整備が必要か？ ・どの部局の事業予算をどのように確保するか？ 	<p>単位老人クラブ会長との打ち合わせまた、保健婦の意見等。</p> <p>65歳以上の高齢者と40歳以上の中高年者を対象</p> <p>報償費で対応している。 月2回 インストラクター 音楽療法士 可能</p> <p>運動機械器具の購入 保健福祉課で確保</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p> <p>生きがい活動支援通所</p>	<p>〔記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数（週、月）、実施体制（スタッフ、研修）、事業予算・補助金、事業所管課、他課との連携（協力）体制 等〕</p> <p>○ 転倒予防教室</p> <p>事業名 転倒予防教室 事業目的 らくらく筋力トレーニング 事業内容 ねたきり防止事業 椅子、ステップ台をつかった筋力トレーニング 開始時期 平成13年6月より 実施回数 月16日から18日 実施体制 保健婦・いきいき館職員・インストラクター 筑波大学より研修を受ける 事業予算 1,650千円 事業所管課 保健福祉課 他課との連携 総合保健福祉センター保健婦等との協力 筑波大学より運動指導を受ける</p> <p>○ 生きがい活動支援通所事業</p> <p>事業目的 家に閉じこもりがちな高齢者、要介護状態になるおそれのある高齢者等に「いきいき館」に来館してもらい 各種サービスを提供し、社会的孤立感の解消、自立生活の助長及び要介護状態にかることを予防を図る。 事業内容 健康チェック・ストレッチ体操・日常動作訓練・レクリエーション・音楽療法・昼食・入浴 趣味の活動等 実施回数 月15日～20日 実施体制 保健福祉課 いきいき館職員 総合保健福祉センター（保健婦） 事業予算 9,537</p>
<p>(問2) 住民に対して、どのように事業を周知しましたか？ ※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<p>広報</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問3) 「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<p>〔 記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数 年間利用者数(実人数、延べ人数) 〕</p> <p>※1年未満の事業の実施回数、利用者数については、実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>事業名 転倒予防教室 年間実施回数 6月～12月 536人 1,698人 年間利用者数</p> <p>事業名 生きがい活動支援通所事業 年間実施回数 平成12年度 263人 延べ1,887人 平成13年度 4月から12月 1,324人 3,442人</p>
<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>福祉と保健(保健婦)との連携がスムーズにしていること。 介護予防拠点施設が整備されていること。 マイクロバスを所有していること。(送迎用) やるきのあるスタッフがそろっていること。 運動指導について、筑波大学の協力をいただけること。</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	<p>介護予防のモチベーションを高める必要あり。 押しつけの介護予防にならないよう、利用者のニーズを的確に把握し、対応策をとる必要あり。</p>
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の運動プログラム策定 平成14年度整備する予定 ○ 運動機械器具の整備 ○ 人材の確保 インストラクター等 ○ 生活習慣予防のための運動プログラムの策定
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者の運動プログラム策定 筑波大学よりインストラクターを派遣していただいている。

6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>() 行っている。→②へ</p> <p>(○) 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<p>現在、介護予防事業をどのように、具体的に推進したらよいか、検討しながら進めているところですので、具体的な評価する段階に達していません。</p> <p>来年度、高齢者の運動プログラム策定、生活習慣病予防のための運動プログラムの策定を行う予定なので、筑波大学の協力をいただき、科学的な根拠に基づく運動プログラムを策定してまいりたい。</p>
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>高齢者の健康寿命を延伸することにより、健康で、生涯を送ることができるようにすることで、結果、老人医療費、介護保険給付費等について、減額できればと思う。</p> <p>平成14年度からの3年間、高齢者の運動プログラムの策定により、医療費等に及ぼす影響を調査する予定である。</p>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	<p>なし。</p>

般若の丘・いきいき館運営事業について

小 鹿 野 町

【はじめに】

「般若の丘・いきいき館」は、介護保険制度の円滑な実施の観点から、国の介護予防拠点整備事業の補助金を受け、高齢者ができる限りねたきりなどの要介護状態に陥ったり、悪化することがないように、(介護予防)や自立した生活を確保するため(生活支援)拠点施設として整備した。

(建物の概要)

鉄骨平屋建 延べ面積 718.75 m²

- ・ 軽運動室 214.95 m²
- ・ 調理実習室 160.4 m² 3
- ・ 生涯学習研修室 43.80 m²
- ・ 和室研修室 28.65 m²
- ・ 事務室 71.23 m²

(建設費)

総事業費 187,717,000 円

- ・ 設計業務委託 3,885,000 円
- ・ 建設工事 161,700,000 円
- ・ 連絡通路 19,132,000 円
- ・ 備品購入費 3,000,000 円

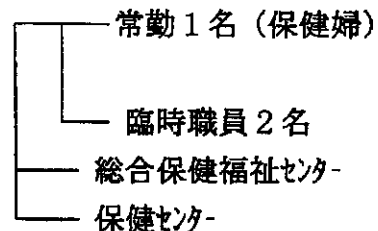
財源内訳 国庫補助金 187,717,000 円

【管理体制】

(般若の丘・いきいき館条例・規則による。)

(組織・機構)

管理者(町長) ——— 館長(保健福祉課長)



(業務日・業務時間)

月 火 水 金 土 (祝日は休館)

午前8時30分～午後5時15分 (貸出は午後9時まで)

【施設の運営】

生涯現役いきいき小鹿野を目指して

町の高齢者の多くは介護を要しないいわゆる元気老人である。

【高齢者2,832人（H13.1.1）要介護認定者341人（率12%）】

「般若の丘・いきいき館」は、元気な高齢者の主体的な活動を支援するとともに、「生涯現役・いきいき小鹿野」を目指し、いつまでも元気でいきいきと充実した生活を送れるよう「健康寿命の延伸」を図るため、介護予防・生活支援の拠点施設としての事業の展開を図る。

【事業の概要】

- 介護予防
 - ・ 転倒予防（ねたきり防止）事業
 - ・ 痴呆予防・介護事業
 - ・ 高齢者食生活改善事業
 - ・ 生きがい活動支援通所事業
- 生きがいづくり
 - ・ 高齢者の主体的活動に対する支援事業
（老人クラブ活動拠点）
- 地域住民グループ支援
 - ・ 住民の自主グループ活動育成事業
- 地域型在宅介護支援センターの設置
- ボランティアセンターの設置

【現在実施している主な内容】

- 楽しみながらの健康づくり事業
現在、単位老人クラブ 19 団体ごとに、マイクロバスで送迎し、健康づくり、生きがい活動支援通所事業、生きがいづくり事業を実施している。

内容

- ・ 健康チェック（保健婦）
- ・ ストレッチ体操（保健婦・いきいき館職員）
- ・ ステップ体操（保健婦・いきいき館職員 筑波大学指導）
- ・ 音楽療法（月 2 回程度実施、音楽療法士）
- ・ レクリエーション（いきいき館職員）
昼食（入浴・カラオケ等自由）

利用者は平均 日 40 人から 50 人

- 中高年層のステップ体操教室
毎週金曜日
教室参加者 60人
- 高齢者のダンス教室
月2回実施
教室参加者 70人
- 単身老人会食事業
月1回程度実施

【今後に向かって】

平成13年6月利用開始したが、町内の高齢者等に利用いただき、現在5,000人程来館いただいている。

今年度は、初年度ということもあり、運動の必要性を理解していただきながら、高齢者にあった運動を行っている。運動のプログラムは筑波大学の指導を受けながら実施しているが、平成14年度からは町の総合的な健康づくり事業の中で「いきいき館」の位置づけを明確にし、介護予防・生活支援事業に積極的に取り組んでまいりたい。

(主なものは)

科学的根拠をもちながらの、町の実情にあった健康づくり事業の推進を図るために、筑波大学の指導受けながら推進してまいりたい。

- 転倒予防（ねたきり防止）教室
高齢者の筋力トレーニングを導入するために、運動プログラムの策定を図る。
- 痴呆予防・介護教室の開催
痴呆の高齢者に対する、運動の効果について研究等実施していく。
- 生活習慣改善事業（中高年層の運動教室）
生活習慣予防のための運動指導効果的に推進するため、運動プログラムの策定を図る。
- 運動機械器具の整備
筋力トレーニング導入により、必要な機械器具を段階的に整備する。